2024.４ 職員会議資料
生徒活動Ｇ 図書館

# 2023年度 図書館活動報告

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年間貸出冊数 | （前年 1,322 冊） | 生徒 | 2,189 冊 |
| | （前年 786 冊） | 職員 | 742 冊 |
| | （前年 19 冊） | 他館 | 41 冊 |
| | （前年 2，127冊） | 総計 | 2,972 冊 |
| 他館借受冊数 | （前年 29 冊） | 166冊 | |
| 年間受入冊数 | （前年 962 冊） | 726 冊 | |
| 年間除籍冊数 | （前年 675 冊） | 1,086冊 | |
| 年間不明冊数 | （前年 ０ 冊） | 4冊 | |
| 予約・リクエスト件数 | （前年 43 件） | 122（予16＋リ 106）件 | |
| 授業利用 | （前年 18 時間） | 74時間 | |
| 蔵書冊数（2024.3） | | 21,128 冊 | |

**＜統計について＞**

- 総貸出数：2022年度より増加。
- リクエスト件数：2022年度より約6倍増加。
- 授業利用数：2022年度より約4倍増加。
- 不明図書を無くすため、図書館資料の利用方法について定期的にアナウンスをする。

**＜広報＞**

- 「上高図書館だより」（教室掲示）、「図書館だより」（教職員向け）を毎月発行した。
- 図書館前の廊下に新着図書・雑誌の書影や「空想科学 図書館通信」、などを掲示した。
- 蔵書検索ページや朝日新聞 記事検索データベース「朝日けんさくくん」に QR コードからアクセスできるポスターを作成した。
- 学年の Google Classroom から、毎月、新着図書案内や図書館からのお知らせを投稿した。
- 職員室と保健室にて出張図書館を実施した。

**＜授業利用＞**

- 2022年度と比べて授業利用時間数は約４倍になった。
- 朝日新聞記事検索データベース「朝日けんさくくん」の導入や Chromebook40 台の整備が時間数向上につながったと考える。
- 政治経済、家庭科「発達と保育」、現代国語などで利用があった。
- 司書は図書館の利用方法や調べ方、参考文献の書き方などについて説明をした。

※来年度は探究学習や修学旅行事前学習など、生徒たちの調べ学習を今まで以上にサポートしていきたい。

**＜館内整備・展示等＞**

- カウンター前に特集コーナーを設置した。
- 新着コーナーの隣に「今週の 10 冊」コーナーを設置。週替わりで NDC（日本十進分類法）をもとに 0～9 類の本を１冊ずつ紹介している。
- 図書館入口にて「今日は何の日？」というテーマで、日替わりで本の展示を開始した。
- 日本の小説を排架している書架に、棚板を１枚追加した。
- 岩波新書コーナーを解体し、文庫と漫画の書架を拡充した。
- 文庫の一部は表紙が見えるように配架し、貸出向上につながっている。
- 教育振興費でステップを購入し、高い位置にある本も安全に利用できるようになった。
- 昼休みと放課後にサイレントルーム（総合学習室）の運営を始めた。

2024.４ 職員会議資料
生徒活動Ｇ 図書館

**＜図書委員会＞**

- オススメ本の POP を１人１枚作成。月替わりで図書館カウンターにて展示。
- 図書館にある新聞やデータベースの利用を促すため、生徒が注目しているニュースの新聞記事紹介を行った。成果物は図書館準備室側の廊下に掲示している。
- 「上高マンガ選挙」の運営。放送部と協力し、候補作品の説明や投票の呼びかけをした。
- ２学期期末テスト後に蔵書点検を実施した。
- 上小交流会に ２ 年生が参加し、図書館が所蔵しているボードゲームで小学生と交流した。
- 読書会を実施した。 課題本 ： フランク・パヴロフ物語 『茶色の朝』 大月書店
- 図書館報「Success」を７年ぶりに発行。

**＜インターネットを活用したサービスの提供＞**

- 朝日新聞記事検索データベース「朝日けんさくくん」（有料契約）
- 図書館の蔵書管理システム（カーリルによる学校図書館支援プログラムの活用）
- Google サイト「調べ学習で使える便利サイト集」

**＜レファレンス例＞**

- 解剖学視点から見た筋トレの方法について知りたい。
- 数学の試験範囲にある〇〇という公式について、教科書より詳しい解説がある資料を探している。
- 赤ずきんがでてきて、昔の童話がもとになっているミステリーの小説が読みたい。
- 相撲を海外の人に紹介する際の参考になる資料が読みたい。
- 電気自動車について書かれている本を読みたい。

※そのほか、３ 年生が小論文対策のための資料や自分の進路の参考になる資料を探す目的で、相談しにくる場合が多い。
※「〇〇の本はありますか？」「何かおもしろい本ないですか？」などの問い合わせにも日常的に対応。

**＜今後の図書館運営＞**

- 学校図書館から公共図書館へつなげる。

⇒相模原市立図書館や県立図書館のサービスを紹介する。

- 「いつでも誰でも居ることができる場所が図書館」というアピールをする。

⇒新入生オリエンテーションでの声かけ。図書委員を中心にして、普段は図書館に来ない生徒が図書館に興味を持つ企画を行う。

- 生徒が卒業後し、もし困ったときに「図書館へ行って司書に聞けば、必要な情報を集めてくれる。」という意識を持ってもらえるよう、積極的に「司書は調べ物のプロ」であると伝える。

⇒レファレンスサービスを周知させる。授業で生徒の求める資料提供をする。

- 自分がどのような情報ならば、手に取りやすいのか・理解できるのかを知る取り組みを行う。

⇒LL ブック（「LL」とは、スウェーデン語の「LättLäst」（英語では easy to read）の略で、誰もが読書を楽しめるように工夫してつくられた、「やさしく読みやすい本」のこと）の提供やリーディングトラッカー（読書補助具）の貸出をする。

- 正しい情報を得る方法・誤っている可能性がある情報を見分ける方法について授業を通じて伝える。

⇒調べ学習時に情報の見分け方について司書から説明する。